

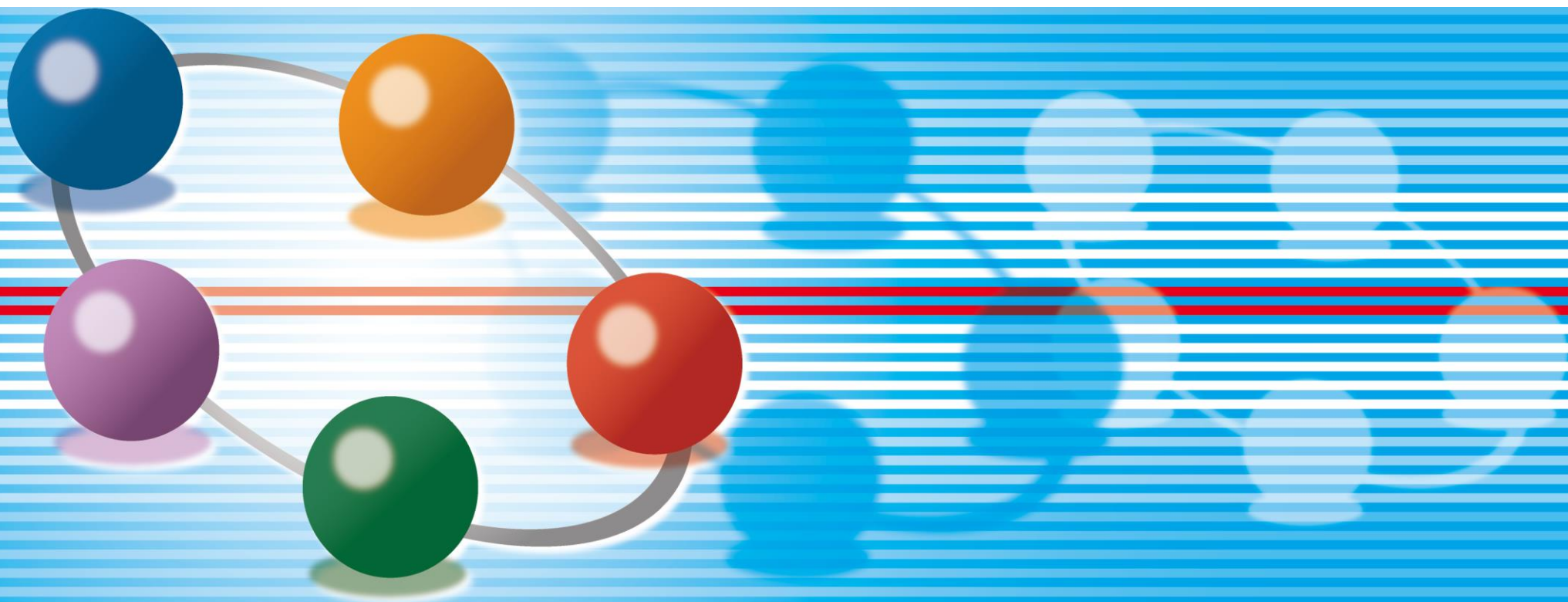


株式会社カワタ 2022年3月期 決算説明会 質疑応答 Q & A

2022年6月6日

(今回は、説明会会場およびウェビナー形式にて
質疑応答を実施しております。)

(証券コード 6292 東証スタンダード市場)



決算説明会（2022.6.6）質疑応答Q & A

- Q: 資料8ページで販売先別売上構成を単体で示されているが、貴社は連単の倍率が高いので、連結の数字はどれくらい変わっているのか教えてほしい。
- A: 自動車部品、OA家電は連結でも一番多い。フィルムシートは、国内が主力な市場である。容器関連は、特にペットボトル、食品トレーは国内である。海外は東アジアでは、電池関連は中国、光学レンズ系は台湾のメーカーが強い。そのあたりが連結では上位に入ってくる。
- Q: 東アジアを中国と台湾に分けると、前期の受注はどのような状況だったか。いま言及されたリチウムイオン関連の金額的な話と、光学レンズ向けの売上受注の実績について教えてほしい。
- A: トータルボリュームは、中国の方が多い。台湾メーカーといいながら中国の沿岸部に工場を建てられているところが多い。仕向け地という意味では圧倒的に中国であると思う。光学レンズ向けは以前から年によって大きく設備投資を行う年とその後抑えられる年がある。手元に具体的な数値を持ち合わせていない。

(続く)

決算説明会（2022.6.6）質疑応答Q & A

（続き）

Q： 今期の受注予想について教えてほしい。

A： 公表しているものはない。足元の状況としては中国のロックダウンの影響は残るが、年度トータルでいえば、前年より大きく落ち込むという感触ではない。前年と同程度の受注は確保できると思う。

Q： 地域別に見ても受注予想はあまり変わらないか。

A： 東南アジア等もコロナの影響が薄れてきているので、全セグメントでさらに回復が続くと見込んでいる。

Q： 受注が前期211億円ということで、今期の受注が前期並みであると、今の売上予想では受注残が積み上がってしまう。今期の受注が前期並みであれば、売上も当然伸びると考えられるが、そこはどう認識すればよいか。

A： 先ほど申し上げたように、世界的にコロナ前と比べると受注してから売上が計上されるまでが長くなる傾向が続いている。この傾向はもうしばらく続くと見て、売上高は230億円と予想している。

（了）

● お問い合わせ先

粉体・粒体加工技術をベースに 新素材開発の未来を切り開く

IRに関するお問い合わせ先

株式会社カワタ 総務人事部

電話：06-6531-8211

e-mail：ir6292@kawata.cc

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。